

# 株式会社プレイドの「Jamf Pro」移行ノウハウと業務改善を加速させるデバイス統制のポイント

株式会社プレイドは、業務用デバイスとして導入するMacのMDMを「Jamf Now」から「Jamf Pro」へ変更しました。その理由は、時代の変化に柔軟に対応し、リモートワークが前提となるこれからの時代に求められるコーポレートITを実現するためです。綿密に計画や準備を行い、経験に裏打ちされたデバイス管理のノウハウやスキルを発揮することで、約1カ月間という短い期間でスムーズに移行を成功させました。従業員にセキュリティを意識させることなく安全な環境を構築し、従業員の生産性を高めるICT環境をどのように構築するのか。「Jamf Connect」を用いたアカウント管理などの今後の展望を含め、株式会社プレイドの梶原成親氏に話を聞きました。

## これからのコーポレートITに求められること

### ● Jamf Nowから移行した理由

CXプラットフォーム「KARTE」を運営する株式会社プレイドでは、管理部門の一部のメンバーを除き、業務用デバイスにMacを採用しています。管理端末数は300台ほどで、そのうち9割9分がmacOSというMac溢れる環境。約300名の従業員の業務用デバイスの運用管理を、エンジニア2名と総務兼任1名の計3名で行っています。

Macの管理には2018年から「Jamf Now」を活用してきましたが、今回新たに同じJamf社のMDMである「Jamf Pro」へ移行。事業の成長に加えて、新たなワークスタイルへ対応するためにしっかりとしたデバイス統制を行うことが目的でした。

「これからはリモートで働くことが当たり前の中になると思います。『ゼロトラストネットワーク』という言葉がありますが、そうした状況の中、どのようなネットワークからでも安全に業務ができるインフラを構築することがこれからのコーポレートITには求められます。また、従業員が意識しなくても必要なセキュリティが担保されているという状態をしっかりと築くことで、従業員の生産性を維持・向上することも重要です」

### ● Jamf NowとJamf Proの違い

株式会社プレイドでは、Jamf Proを使って「デバイスの見える化」と「設定の自動化」からデバイス統制に着手し始めました。

「MDMの移行にはコストがかかりますが、Jamf



株式会社プレイド Corp IT Engineeringの梶原成親氏。さまざまな会社でAgileコーチ、技術顧問、情報システム顧問を担当するほか、社外的な活動ではAtlassianユーザグループオーガナイザーも務めています。



### 弊社環境

- ✓ MacOS が 9割9分。 300台程。 Windowsは経理で数台。
- ✓ Corp IT エンジニアは 2人、 総務兼任で 1名の 3名チーム
- ✓ AzureAD, OktaなどのIDPはまだ無い。
- ✓ 2年ほど前に Jamf Now が導入されていた。
  - ✓ 全端末がJamfで管理してるワケではなかった（オープン登録 ≒ UIE）
  - ✓ DEP設定はできていた

Proの導入はそれに見合った価値があると感じました。Jamf Nowは専任のIT管理者がいない場合や管理台数が少ない場合には、最低限必要な構成プロファイルや端末の制御などを簡単に行えるので大変便利です。しかし、従業員の増加によって管理台数が増えたり、より詳細な設定や高度な機能を利用したい場合は、やはりプロフェッショナル向けのJamf Proのほうが適していると思います」

## Jamf Pro導入のメリット

### ●手動だったインベントリ管理

Jamf Pro導入前に株式会社プレイドで抱えていた課題の1つは、Macのインベントリ(在庫・資産)管理でした。Jamf Nowを利用していたものの、インベントリ管理はマニュアル作業で行っていたのです。端末のモデル名やシリアルナンバー、利用者の名前などをスプレッドシートに書いて運用していましたが、管理する台数が増えてきたことで大変になり、更新漏れも増えてきました。

「Jamf Proを使えば詳細なインベントリ管理が楽に行えます。たとえばUSキーボードを備えた最新Macの在庫が何台あるか、購入から2年が経過したMacがどれくらいあるかなどの情報を数クリックで確認できます。ネットワーク経由ですべての端末の情報を瞬時に知ることができますので、いちいち対象のMacを探す必要はありません」

### Jamf Pro 導入前の運用

- ✓ インベントリ管理は、SpreadSheetsで運用されていた。
- ✓ シリアルNo、モデル名、スペック（CPU、メモリ、SSDなど）、利用者
- ✓ 状態管理（使用中、故障とか）もSpreadSheetsで管理
- ✓ 新入社員のPCセットアップは、新社員自身がWikiに記載している手順どおりにセットアップを終わらせる。

 #JNT21

Copyright kajinai All rights reserved.

### ●Jamf Proによるゼロタッチ導入

また、従業員が増加する中、Macの初期セットアップを書類に記載されたとおりに新社員に行ってもらうのは、貴重な時間の無駄ではないかという問題意識もありました。

「Jamf Proを使えば、従業員の手間を増やさずに、必要なアプリのインストールや設定などを自動で行うことができます。最近、Google Chromeの脆弱性の問題があったのですが、そうしたときも自動でパッチをアップロードして対応できました」

Jamf Proによって「設定の自動化」が可能になったことで、これまで新社員が半日かけて行っていたMacの初期セットアップは大幅に時間短縮できました。Jamf ProとAppleの「自動デバイス登録」を連係させることで、Macの電源を入れてネットワークに接続したらすべての設定が自動で業務用デバイスに適用されるため、新社員が時間をかけてセットアップ作業を行う必要がなくなったのです。

### ●セキュリティは「設定」ではなく「徹底」が大事

株式会社プレイドでは、「セキュリティを徹底すること」を重要視しています。なぜなら、情報漏洩のリスクは、セキュリティの弱いところ・低いところから増していくからです。Jamf Proを導入したことにより、より詳細なセキュリティ対策が行えるようになったことも大きなメリットでした。

「たとえば、Macの紛失時には端末を遠隔ロックしてリモートでデータを消去できます。それに加え、Jamf ProではmacOSのFileVaultの設定を確認して暗号化されているストレージなのかを知れたり、紛失後にMacへログインされた形跡があるのかなどを確かめたりすることができます。つまり、端末を紛失してしまっても、『ログインされている形跡はなく、漏洩しているデータはない』ことまでをチェックできるのが大きいのです」

また、パスワードマネージャーやアンチウイルスソフトを今後導入する際、管理側で自動で配付することができるのもメリットです。従業員が行うのはアプリのアクティベーションだけで済むため、従業員の生産性を損なうことなく、徹底したセキュリティをスムーズに浸透させていくことができます。

# 移行を成功に導くためのノウハウと今後の展望

## ●「JumpStart」の価値

Jamf Proに契約すると、Jamf認定トレーナーがハンズオン形式でJamf Proの使い方や環境構築をサポートする3日間のオンボーディングプログラム「JumpStart」を利用することができます。株式会社プレイドでは、このプログラムを活用することで、自分たちで行くと1~2週間かかった初期セットアップを3日間という短時間で実現することができました。「信頼できるJamfのトレーナーがずっと隣にいてくれますので、わからないことを確認し、やりたいことをすぐに形にできます。チームメンバー全員一緒に受けることができるので、知識というかノウハウの共有にも役立ちます。ただし、行きあたりばったりで臨むのではなく、『利用期間中に初期セットアップを終わらせる』などの目標を持って、しっかりと事前の準備しておくのが重要です。私たちのチームではプロジェクト管理ツールの『Trello』を使って事前にやりたいことをリスト化し、JumpStart中は常にタスク管理を行って3日間のトレーニングを十分有意義なものにすることができました」

## ● 全社展開でも重要な進捗管理

Jamf Proで設定したポリシー（構成プロファイル等）の全社展開は小規模グループから行い、微調整しながら範囲を広げ、JumpStart翌週に完了。初期セットアップがスムーズに進んだことに加え、独自の工夫をしたことが短期間での実現につながりました。「新規端末なら『自動デバイス登録』を使ってJamf Proの管理下に自動で置くことができますが、既存端末は従業員の協力を仰ぎながら1台ずつ登録しなければなりません。台数が多いと大変ですから、効率的に進められるようWebツールを活用しました」株式会社プレイドで用いたのは、あるイベントが実行された際に外部サービスにHTTPで通知する仕組みである「Webhook」と、タスク自動化ツール「Zapier」です。Jamf Proにデバイスが登録されたら、Webhookを用いてデバイスのシリアルナンバーで照会してGoogleスプレッドシート上のステータスを「完了」と表示するよう設定。また、その後Zapierを使ってSlackなどで登録完了の通知を知らせたり、自動的に集計したりすることで、効率よく登録完了状況を把握できるようにしたのです。

## JumpStart受講する前に準備すること

- ✓ 設定したいことをカテゴリ毎にまとめておく。
- ✓ 分からない単語をまとめておく。（DEP、APNs、ABM等）
- ✓ 初期化しても良いDEP端末をMac / iPadを準備しておく。
  - ✓ DEP端末 ≒ Appleから購入した端末（ABMで代理店登録したベンダーから購入した端末）
- ✓ iPadはNon-DEP端末を準備しておく、DEP手順を知ることができて良い。
- ✓ 導入後の運用を想定して、今手動でやってる運用をリストアップしておく。
- ✓ 優先順位をつけて、3日間でやれることをやっていく。

#JNT21

Copyright kajinai All rights reserved.

## カテゴリ毎にToDoをリスト化する



#JNT21

Copyright kajinai All rights reserved.

## 進捗を管理する

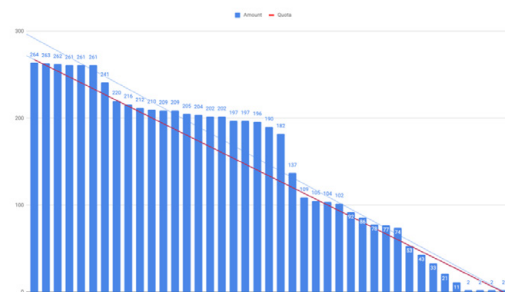
- ✓ 総務が持つSpreadSheetsに「Jamf導入状況」を記載する列を作り、一致するシリアル番号の行を検索して、上記列を「DONE」と更新する。
- ✓ 自動的に進捗がレコードされていくので、管理者はラクに。
- ✓ ラクになった分、丁寧な説明と、丁寧にリマインドができるようになる。
- ✓ バーンダウンチャートで見ると進捗わかりやすい

Serial Number	Device Type	Username	Full Name	Email Address	Asset Tag	Status	Date	Jamf ID
PL-F202	Computer				PL-F202	DONE	2020-11-28	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F201	Computer				PL-F201	DONE	2020-10-27	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F113	Computer				PL-F113	DONE	2020-11-10	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F198	Computer				PL-F198	DONE	2020-10-27	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F284	Computer				PL-F284	DONE	2020-11-12	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F400	Computer				PL-F400	DONE	2020-11-08	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F260	Computer				PL-F260	DONE	2020-11-11	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F164	Computer				PL-F164	DONE	2020-10-27	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F160	Computer				PL-F160	DONE	2020-11-12	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F147	Computer				PL-F147	DONE	2020-11-17	jamf@pl.computerlab.jp
PL-F145	Computer				PL-F145	DONE	2020-11-17	jamf@pl.computerlab.jp

#JNT21

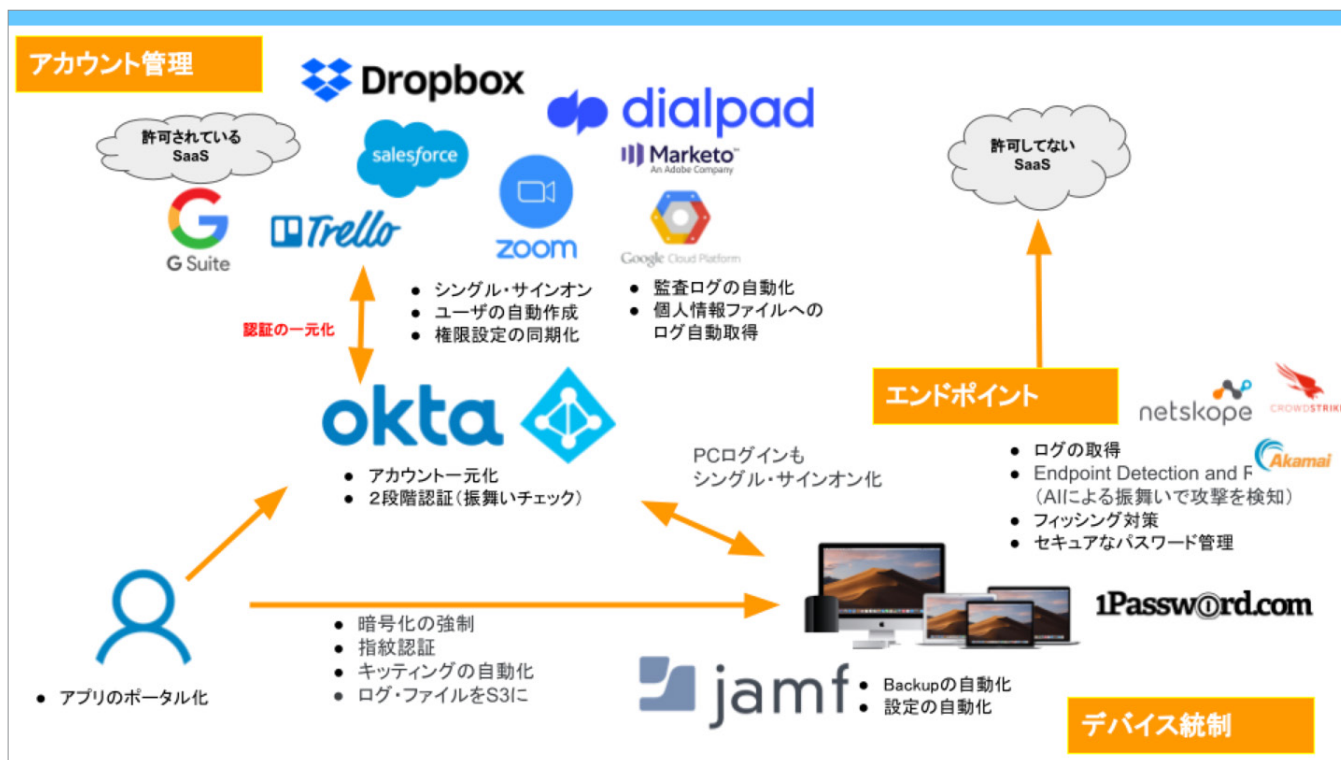
Copyright kajinai All rights reserved.

## 進捗を管理する



#JNT21

Copyright kajinai All rights reserved.



## ● デバイス管理の今後

Jamf Proの導入は、株式会社ブレイドが目指す環境構築のほんの始まりに過ぎません。「デバイスの見える化」と「設定の自動化」の次に取り組もうとしているのが、「簡便なアカウント管理」です。

「今後Oktaを導入して、従業員がさまざまなWebアプリケーションへログインする際に、1つのID/パスワードでシングルサインオンできる仕組みを整える予定です」

また、Jamfの「Jamf Connect」を使ってMacのアカウントをOktaの認証情報と統合することで、MacへのログインもOktaと同じID/パスワードでできるようします。

「従業員にとってはOktaにログインすればMacにもログインできるので大変便利です。また、パスワード忘れによって無駄な時間を費やさなくても済みます。管理者側にとっては、Jamf Pro上で別途しなければならなかったMacの従業員への割当などがOkta上でできるようになるので運用も楽になると思います」

そのほか、Jamfに登録されているデバイスのデータをOktaと連係させて、デバイスの認証を行うことも予定しています。BYODのデバイスや私用端末からよく使うサービスへのアクセスを制限かけたり、セキュリティ設定が万全ではないデバイスを接続できないようにする狙いです。

「これを言うとな『管理をそこまで強めるのか!』という話になりがちなのですが、目的はそうではありません。Jamf Proに登録されているデータを活用することで、信頼されたデバイスならばパスワードレスで業務ツールへアクセスできるようなユーザ体験の強化をしたいと思っています」

### Webinar Information

本記事は、2021年2月9日に「BrightTALK」(<https://www.brighttalk.com/>)で開催されたウェビナーの内容を編集したものです。フルバージョンの動画は右のQRコードからBrightTALKのサイトで視聴いただけます。

